2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	子ども家庭福祉	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	昼主2年生	学期及び曜時限	前期 月曜日3限	教室名	合同校舎301教室
担当教員	峪口　蔵人	実務経験とその関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。		

《授業科目における学習内容》

生活上困難を抱える方に対して関心をもち、理解しようとする姿勢を養う。そのうえで、社会福祉援助職たる保育士として他社に寄り添い、支援を行う方法について考察し、実践力を身に着けることを目的とする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験　70%　出席評価点　20%　平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』 萌文書林、「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」 ミネルヴァ書房
・参考図書　保育所保育指針

《授業外における学習方法》

「子ども」に関するニュース、出来事などに関心をもち、読むこと。

《履修に当たっての留意点》

保育士として実務に直結しないないように思えるが、保育士資格を定義しているのは本授業で扱う児童福祉法である。保育士の基盤となる授業内容であり積極的に参加されたい。試験・レポートの内容は授業中に話した内容をベースにします。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自分について考えることができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	演習を通して「自己覚知」及び「子ども家庭福祉」について講義する		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもを取り巻く社会について理解することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	少子化や子どもを取り巻く社会の変遷、現状について講義する		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利について考えることができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	演習を通して「幸福・幸せ」について見つめなおすとともに、子どもにとっての「幸福・幸せ」とは何か、子どもの権利を踏まえつつ考え、講義する。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	海外の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	子どもの捉え方の変遷とともに海外における子ども家庭福祉の歴史について講義する		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日本の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本における子ども家庭福祉の歴史及び戦前・戦後の社会福祉事業家の思いについて講義する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童福祉法について理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉法について講義する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育てに関連する法律を理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童虐待防止法など関連法につて講義する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童福祉施設の種類と現状を理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉施設の種類と現状、今後の方向性について講義する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉を支える専門職について理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉施設の職員や資格、地域で支える人々など専門職について講義する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭に対するサービスについて理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育サービスやひとり親家庭等に対するサービスについて講義する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会的養護関連サービスについて理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会的養護関連サービス及び今後の方向性について講義する。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域の子育て支援サービスについて事例を用いながら検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討①		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童虐待の予防や対応について事例を用いて検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討②		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	障がいがある児童や家庭への支援について事例を用いて検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討③		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉において大切にしていることは何か、理解する。	・教科書:『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	全15回の授業の振り返りを行うとともに、子ども家庭福祉において大切にしている価値について振り返る。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	子ども家庭支援論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	夜主2年生	学期及び曜時限	前期 月曜6限	教室名	合同校舎301教室
担当教員	峪口 蔵人	実務経験とその関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。		

《授業科目における学習内容》

子育て家庭の抱える多様なニーズに即した支援の方法について理解する。また、支援の際に保育士に求めれる基本的態度についても理解し、実践できる力を養う

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験 70%　出席評価点 20% 平常評価点 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:『保育と子ども家庭支援論』 株式会社みらい
・参考図書 保育所保育指針

《授業外における学習方法》

「子ども」に関するニュース、出来事などに関心をもち、読むこと。

《履修に当たっての留意点》

子どもには家庭がある。すなわち、保育士は家庭支援を必ず行っている。本授業においては、家庭を支援する基本的姿勢を養うことを目的とする。よって、積極的に授業へ参加する必要がある。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	支援を学ぶ意味を理解することができる	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	生活の中における支援について検討する		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭への支援について知る	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	各年齢層の子どもを対象とした支援があることを演習形式で学習する。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	「援助する」ことについて説明できる	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	他者を支援する、援助するとはどういうことなのか、ともに考察する		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利を理解することができる	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	子どもの権利条約や、子どもの権利についての歴史的変遷について講義する		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日常の中における「子どもの権利」について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	家庭、保育所、社会的養護施設、地域社会における子どもの権利についてともに考察する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域における家庭支援の実践について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会における子育て支援や保育の状況を理解し、保育士の実践の活用する方法を検討する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域において民間と行政が連携した支援を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会において行政とも連携した取り組みを学ぶことにより”協働”することについて検討する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭に対する社会資源を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源について確認するとともに、子育て家庭に活用できる社会資源について講義する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会資源を活用した子育て支援の展開について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源を活用しながら展開されている子育て支援の実態について講義する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多様な価値観について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	保護者や子どもの多様なニーズ、価値観について演習を通しながら理解する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の対象と内容を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	支援の対象となる方々の現状、支援の内容について講義する		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保育所を利用する家庭支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域の子育て家庭への支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	特定妊婦、要支援児童、要保護児童への支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の現状と課題、従事者の論理や姿勢について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』 株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	本講義全体を振り返るとともに支援において必要とされる姿勢や倫理について講義する		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	保健保育科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	子どもの食と栄養	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	昼主2年	学期及び曜時限	後期	教室名	合同301教室
担当教員	西山　貴子	実務経験とその関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。		

《授業科目における学習内容》

①人の一生をライフステージに沿って、その時期の特徴と食生活との関わりについて学び、注意点・問題点を考察する。
②「乳幼児期」の発育の特徴と食との関連は、歯の萌出と咀嚼・間食の役割・偏食や問題行動など詳しく学ぶ。
③適切な発育ができる乳幼児の食内容と量について学び、3～4歳児に食べさせたい食事を計画し実習する。
④食物アレルギーや免疫力の低い乳幼児への衛生管理を学び、調理に活かす。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「子どもの食と栄養」 中山書店

《授業外における学習方法》

①実習先で、食に関する児の様子と先輩保育士さん達の声かけ・指導のし方を学んでくる。例えば「偏食」にはどのように対応されていますか？
②食物アレルギー児が増えています。重症化しています。食物アレルギーについての基礎知識と対応を調べましょう。
③調理に関心を持ち、買い物に行って食材料の価格を調査、また調理が出来るよう練習しておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

人の一生涯に渡る健康は、連続性を持ってつながっています。出生時はもちろん、人の健康は妊婦の妊娠前～妊娠中の食生活と健康度が大きく左右します。高齢になってからの健康も、子どもの頃からの食生活が大きく影響します。中でも重要で取り返しのつかないのが成長期、特に乳幼児期です。保育士はその点を確認し、支援できる力を養いましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠前・妊娠期の問題点・注意点について説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活① ・妊娠期と胎児期の栄養		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	授乳期の特徴と「母乳栄養」と「人工栄養」の利点や問題点などが説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・育児用ミルクの種類を調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活② ・乳児期(授乳期)の栄養;母乳栄養と人工栄養		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	離乳食作りの基本を理解し指導できるようになる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・離乳食について調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活③ ・乳児期(離乳期)の栄養;離乳の意義と食生活(アレルギーへの注意を含む)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	販売されている離乳食の利点と問題点を知る。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・市販されている離乳食を調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活④ ・乳児期の栄養上の問題と健康への対応		
第	講義	授業を通じての到達目標	幼児期の食機能を理解し、適切な硬さや偏食などの問題行動への適切なアドバイス・指導ができる。咀嚼の重要性を説明できる。	・教科書「子ども	・実習先や周りの幼児の食事に関心を持ち、問題行動を調べる。

第5回	講義 演習 形式	各コマにおける授業予定	第3章；子どもの発育・発達と食生活⑤ ・幼児期の心身の発達と食生活 ・幼児期の成長・発達；食機能、幼児期の食行動	の食と栄養」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児期の食事量と内容が適切であるかどうかを判断し、アドバイス・指導ができることを目指す。調理実習計画の基本知識。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・幼児がどんな物を好んで食べているのか調査しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章；子どもの発育・発達と食生活⑥ ・幼児期の栄養；心身の発達と食生活 ・食事摂取基準、1日の目安量、6つの基礎食品など		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児にとって「間食」は重要な意味を持ちます。それが不適切な間食とならないようアドバイス・指導ができる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・子どもの間食について、調べたり観察したりしておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章；子どもの発育・発達と食生活⑦ ・幼児期の栄養；心身の発達と食生活・間食（おやつ） ・間食の意義・考え方、適量、内容、好ましくない間食の背景		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	5～7回の幼児期の授業内容をふまえ、調理実習計画を実習グループごとに立てる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	調理実習計画の説明（レジュメ）の確認とこれまでの授業内容を復習しておく。 調理実習グループでテーマや献立の方向性を決めておく。
		各コマにおける授業予定	第3章；子どもの発育・発達と食生活⑧ ・幼児期のまとめ　★3～5歳児の幼児期の食事を計画する 第5章；児童福祉施設における食事と栄養 ・保育所における栄養管理と献立作成		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学童期の問題は、乳幼児期の課題を引き継いでいることを認識する。 調理実習計画を実習グループごとに仕上げる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・調理時間内に調理実習計画が仕上がるようにしておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。
		各コマにおける授業予定	第3章；子どもの発育・発達と食生活⑨ ・学童期・思春期の栄養；心身の発達と食生活		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食の提供に関する安全性の知識を理解し、園での給食の安全性確保と家庭への指導ができるようになる。 調理実習の安全性を確保できるように、献立の最終チェックを行う。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・調理実習を安全に行うため行うことを調べておく。
		各コマにおける授業予定	第5章；児童福祉施設における食事と栄養 ・安全・安心な食事の確保；児童福祉施設で行われる調理の際の注意点（手洗い含む） ・食中毒を起こさないための三原則		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	遅刻しない、忘れ物しない、怪我しない（真剣に取り組む） グループ全員で協力して幼児の成長を応援できる食の計画を実現化する。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・グループごとに献立の担当者・責任者を決め、衛生的で美味しく、栄養価に優れた食事が作れるよう研究し練習しておく。
		各コマにおける授業予定	調理実習（1）；「3～5歳児に食べさせたい食事」 ・衛生面にも配慮して、グループごとに協力して作り上げる。		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	グループの計画が授業目的に合致していたか、幼児が食べる姿を思い浮かべながら考察する。確実に片づける。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・日本型食生活の配膳方法を確認しておく。 ・食事マナーを調べておく
		各コマにおける授業予定	調理実習（2）；配膳、試食、後片付け ・正しい・子どもが喜ぶ配膳の工夫、良い点・改善点を考察しながらマナーを守って試食、確実な後片付け		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食物アレルギーは増加・重症化しています。成長に不可欠な食べ物を危険な物としないよう正しい知識をつけ、保護者や主治医と協力体制がとれるようにする。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・食物アレルギーについて調べたり、情報収集しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	疾病及び体調不良の子どもへに対して正しい知識をつけ、対応できるようにする。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・疾病及び体調不良について調べたり、情報収集しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病及び体調不良の子どもへ対応		
第	講義	授業を通じての到達目標	「子どもの食と栄養」のまとめとして、発達は高齢者まで生涯連続している。だからこそ子どもからの「食育」の重要性を認識し計画・実行できるようになる。	・教科書「子ども	・どのような「食育」が必要か考えておく。

15回	演習形式	各コマにおける授業予定	第3章;生涯発達と食生活　第4章;食育の基本と内容 ・保育所における食育の意義・目的と基本的考え方・食育計画を立てる、食を通した保護者への支援	の食と栄養」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	保育原理	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　金曜3限	教室名	302
担当教員	山田　遥	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

保育について、保育制度、内容、方法、政策、歴史など基本的な学び、幅広い視野を持ち、また、保育の基本である子どもの遊び、生活について学び、幼児の育ちを支援する保育の原理・原則を説明できるようになる。さらに、現代の子育て支援ニーズ、対応の視点から、発展的な視点と保育士の仕事の位置づけ、求められていること、実践内容が出来る。またグループワークも取り入れ、自分なりの保育観を確立、保育士としての自己実現できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

1.定期試験　70%
2. 出席点　　20%
3. 平常点(授業態度・課題提出等)　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)

《授業外における学習方法》

予習として、授業時に指示した次回の内容について保育指針、解説書を読む。保育や乳幼児や子どもを取り巻く時事ニュースに関心を持ってみる。復習として、再度、授業で学んだ部分の保育指針と解説書を読む。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る

《履修に当たっての留意点》

学ぶすべての科目がそれぞれ別個のものではなく、根底は一つの水脈でつながっている事を保育原理の授業を通して学んでくれる事を期待します。この授業を学んで、保育士としてより深い楽しみ、やりがい、喜び、大きな自己実現につなげる機会としましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育の意義や目的を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、保育とは何か、理念と概念を理解する。子どもを取り巻く社会の変化を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育所の公的施設としての社会的責任について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育が果たす社会的役割と保育に求められている責任について理解する。子育て状況の問題点を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育所、幼稚園、認定子ども園の成り立ちを説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法律に基づき制度として位置づけられた保育の公的な営みを理解する。子ども・子育て支援新制度による保育の変化を知る。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針の方向性と構成について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育所保育指針に基づく内容や制度的位置づけについて理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材:保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳児保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1歳以上3歳未満保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1歳以上3歳未満の保育の基本（養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育）を事例を基に理解する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	3歳以上児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳以上児の保育の基本（養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育）を事例を基に理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育の過程のための、子どもの発達の捉え方について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育における子ども理解の視点と方法について、理解する(子どもを見るまなざしと行為の意味を理解する)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の子ども観、発達観、保育観を説明することができる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	子ども観・発達観・保育観とはなにかを考察する。子ども観と保育の内容・方法を身につける。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	子ども観、発達観、保育観から、保育の目標と方法について説明できる	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育の目標・方法・環境について、さらに深く理解する(子ども観・発達観・保育観から考える)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	子育て支援のニーズに合わせた、相談支援を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	子育て家庭の困難状況、現在の問題点を理解し子育て支援のニーズを理解する。相談支援の基本原則を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	海外の保育思想や歴史を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	海外の保育思想と歴史とつながる(子どもの発見という歴史的転換について把握し、現代における子ども中心の保育教育思想の発展を学ぶ)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	戦後の保育から、現代の保育の原点にについて説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本の保育思想と歴史とつながる(古くから伝わる日本人の保育観を見直すと共に戦後の保育と現代の保育のつながりを考える)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育者に求められる「専門性」について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「保育の専門家への道」とつながる。これからの保育者論について知る		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の保育の現状と課題について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、　配布資料　参考教材：保育原理（中央法規・みらい）	既習全学習（資料配布等）を振り返り、しっかりと復讐しておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本における保育の現状と課題について理解し、子ども・子育て支援新制度の改革の実態を知る。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	保育実習指導Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	夜主2年生	学期及び曜時限	前期 火曜7限	教室名	合同校舎301教室
担当教員	大枝 美有紀	実務経験とその関連資格	京都市にて、児童発達支援施設、小規模保育園、企業主導型保育園にて保育士として勤務。担任、人材育成の業務を行う。大阪府・大阪市子育て支援員研修(一時預かり事業全般)の講師を務める。保育士資格・幼稚園教諭2種免許		

《授業科目における学習内容》

施設実習の目的や保育士の役割、関わりを理解する。また、講義だけではなく、現場における事例をもとに、ディスカッションなどの演習を取り入れ、実習への不安を少しでも取り除き実習で主体的に取り組むことができるようになる。

《成績評価の方法と基準》

・授業内評価と提出物、実習報告会時の発表内容　70%　・出席評価点　20%　・平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書『幼稚園・保育園　実習まるわかりガイド』ナツメ社

《授業外における学習方法》

・実習前では、施設の目的、施設の養育の内容、施設の設備、施設の職員に関して理解に努める。
・家事一般ができるよう、生活技術を身につけておく。

《履修に当たっての留意点》

・施設実習は、施設から課題が与えられる場合があるので、普段から課題等はすぐに取り組むようにしましょう。すべては主体的に取り組むことからですので、授業から慣れていきましょう。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	次の施設実習に活かせることができるように、保育園での実習を振り返ることができる。	・配布プリント	・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション ・保育実習Ⅰ(保育園)振り返り		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習までに何が必要なのか整理し、計画を立てることができる。	・配布プリント	・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。
		各コマにおける授業予定	実習関係書類の準備、確認		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習での視点をどこに置けば良いのか理解し、視点に沿った計画を立てることができる。	・配布プリント	・施設の内容について、各自調べ、理解に繋げておく。
		各コマにおける授業予定	・施設実習を迎えるまでに ・実習で学ぶ目標		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	施設の現状を理解し、説明することができる。施設の目的と意義を理解し、説明できる。	・配布プリント ・DVD	・施設の1日の流れを把握しておく。また、保育士以外の職員の関わりを知る。
		各コマにおける授業予定	・施設での実習の進め方		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	施設の現状を理解し、説明することができる。施設の目的と意義を理解し、説明できる。	・配布プリント ・DVD	・施設の2日の流れを把握しておく。また、保育士以外の職員の関わりを知る。
		各コマにおける授業予定	・施設での実習の進め方		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	日誌の項目の理解ができ、それにそった記入ができるようになる。	・配布プリント	・書き方が理解できない場合や、不安なところがある場合は、次回の授業までに質問し、解決に繋げる。
		各コマにおける授業予定	・施設での実習の進め方 ・日誌の練習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	意気込みを記入すると同時に、実習に向けての準備の確認を行い、課題等を終わらせることができる。	・配布プリント	・今回の授業でできなかった指定課題は計画を立て、実習に行くまでに完成させる。
		各コマにおける授業予定	・お礼状の書き方 ・意気込み		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習中の自分の行動等を振り返ることができる。	・配布プリント	・今回の実習で、足らなかったもの等を考え、次に活かせるよう普段から意識して行うようにする。
		各コマにおける授業予定	・事後ワーク（振り返り） ・自己評価		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	他の学生の事後ワークを見て、どんなことをしていたか知ることで、次の実習に活かすことができる。	・配布プリント	・次回は実習報告会の準備を行うので、各自必要なものを準備しておく。
		各コマにおける授業予定	・事後ワークを使用してグループワーク		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	1年生に発表をするうえで相手の立場になり、報告できる。	・パソコン ・各自用意した資料	・PPのスライド面を完成できていない学生は、次回の授業までに完成させる。
		各コマにおける授業予定	・実習報告会（保育実習Ⅰ保育所）の準備		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	完成させたPPの発表に合わせ、練習を行うことで、本番では傍聴者が理解できる内容に完成させることができる。	・パソコン ・各自用意した資料	・PPが完成していない場合は、次回の授業3日前までに完成をさせ、提出をする。
		各コマにおける授業予定	・実習報告会（保育実習Ⅰ保育所）の準備		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表後質問に答えることで、伝える難しさを知ると同時に、相手が理解できるまで諦めずに説明できるようになる。	・パソコン ・各自用意した資料	・児童館について各自で予習をしておく。
		各コマにおける授業予定	・実習報告会		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	児童館の役割を理解したうえで、種別の違いを把握し説明することができる。	・配布プリント	・発達段階の復習を行っておく。
		各コマにおける授業予定	・児童館について①		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	児童館の役割を理解したうえで、種別の違いを把握し説明することができる。	・配布プリント	・保育実習Ⅱ又はⅢに向けての準備状況の確認を行う。
		各コマにおける授業予定	・児童館について①		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの理解を深めるため、発達段階に応じた留意点を考えることができるようになる。	・配布プリント	・余裕をもった準備を行い、実習に挑む。不安や疑問がある場合は、解決に繋げる。
		各コマにおける授業予定	・児童館について②		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	保育実習指導Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	昼主2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	合同校舎301
担当教員	山田　遥	実務経験とその関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格　幼稚園教諭2種免許		

《授業科目における学習内容》

保育実習Ⅰ(保育所)での評価反省を振り返り、学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より更に主体的に取り組むための計画を立て、実習に備える。そして、就職へとつなげることができる。

《成績評価の方法と基準》

・授業内評価と提出物、報告会　70%　・出席評価点　20%　・平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書『幼稚園・保育園　実習まるわかりガイド』

《授業外における学習方法》

保育実習Ⅰ(保育所)の日誌に再度目を通し、「できなかった」「もっとできていたのに」等、を思い出し、どのように取り組まなければならないか再度確認を行い、更に良い実習であるようにするために準備を行っていく。

《履修に当たっての留意点》

保育実習Ⅰ(保育所)で行った実習よりも、部分実習の時間が長くなったり、責任実習になったりすることもあるので、学びに繋げることができるようにサポートしていきますので、なんでも質問をしてきて解決に繋げましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで過去の関わりで困った事例を考えることで、色々な対応があることに気付き、視野を広げ保育士としての対応方法を述べることができる。	・配布プリント	・自分自身の関わりで困ったことがあれば、教員や他学生にどう対応するかなど聞き、視野を広げて考えるようにする。
		各コマにおける授業予定	・子どものかかわりの復習とワーク		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育園ⅠとⅡ、の違いを理解し、説明できる。	・配布プリント	・実習までに余裕をもって準備を終えるようにする。
		各コマにおける授業予定	・保育実習Ⅱの事前課題 ・意気込み		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	振り返ることで、何が足りないか知ると同時に、習得するための課題を述べることができる。	・配布プリント	・次回グループで事後ワークを使用するので、完成させておく。
		各コマにおける授業予定	・事後ワーク(振り返り) ・自己評価		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習の中で学んだことを発表をグループ内で行い、個々が他の園の保育内容等を知ることができ、特徴を説明することができる。	・配布プリント	・今までの日誌を一通り、目を通しておく。
		各コマにおける授業予定	・事後ワークを使用してグループワーク		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	日誌を基に今までの実習を振り返ることで、より丁寧な日誌になるよう具体的に述べることができる。	・過去の日誌 ・レポート指示書 ・レポート用紙(下書き)	・次回の授業終了後に下書きを提出するので、それまでに計画を立てて取り組む。
		各コマにおける授業予定	・レポート下書き(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)、Ⅲ(施)を振り返り)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	指定された文字数の中で、何が伝えたいか理解できるような内容を書くことができる。	・レポート用紙（下書き）	・提出する前に、指示書を読み直し、指示通りにできているか、各自確認をする。
		各コマにおける授業予定	・レポート下書き提出（保育実習Ⅰ（保）、Ⅰ（施）、Ⅱ（保）orⅢ（施））		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	読まれるという意識から丁寧に書き、読みやすいように配慮しようとすることができる。	・レポート用紙（清書）	・今回の授業で清書が完成しなかった学生は、指定された日程までに提出する。
		各コマにおける授業予定	・レポート一斉清書		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	1年生の困った内容等に、適切な対応を伝えることができる。また、良い雰囲気の中で話合いができるよう環境づくりができる。	・配布プリント	・授業時だけではなく、休み時間等も声をかけられやすい雰囲気づくりをする。また、声を掛ける等関わりをもつ。
		各コマにおける授業予定	・実習報告会（聴講者）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	丁寧に作成し就職後も使用できるように、丁寧に作ることができる。	・課題指示書 ・A4用紙 ・マジック	・未完成の学生は、指定された日程までに提出する。そしてこれからの授業は、その都度提出になるので、計画を立てて取り組むようにする。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（手遊び・ふれあい遊び）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	壁面の大きさに合わせて、作ることができる。	・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌	・型紙を使用するのではなく、普段から絵を見て描くことができるように、取り組む。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（壁面）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	協力して取り組んだ壁面の完成により、注意点述べることができる。	・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌	・次回の授業までに、保育園や幼稚園の行事を考え、発表できるように準備をしておく。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（壁面）完成		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	内容のある園便り・行事のお知らせを作り、他学生が理解できるものを作ることができる。	・見本（園だより）	・自分で「大切」だと思った内容に対して、積極的にメモを取るようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（園だより・行事のお知らせ）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	今までの指導案を振り返り、記入漏れや子どもの予想される姿や配慮等足らない部分に気付くことができる。	・今までの日誌 ・指導案	・次回の授業終了後に提出するので、計画を立て、取り組むようにする。
		各コマにおける授業予定	・設定保育集作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	足らない部分に気付きより良い指導案を完成させることができる。	・今までの日誌 ・指導案	・指導案未完成の学生は指定された日程までに提出する。
		各コマにおける授業予定	・設定保育集作成完成		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育士としてどうあるべきか、明確な保育士像を述べることができる。	・配布プリント	・各自が思う理想の保育士像に近づけるように、必要だと思うことに対して、真剣に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・実習を終えて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	保育実習指導Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	昼主2年	学期及び曜時限	後期	教室名	合同校舎302
担当教員	山田　遥	実務経験とその関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格　幼稚園教諭2種免許		

《授業科目における学習内容》

保育実習Ⅰ(施設)での評価反省を振り返り、学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より更に主体的に取り組むための計画を立て、実習に備える。そして　就職へとつなげることができる。

《成績評価の方法と基準》

・授業内評価と提出物、報告会　70%　・出席評価点　20%　・平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書『幼稚園・保育園　実習まるわかりガイド』

《授業外における学習方法》

保育実習Ⅰ(施設)の日誌に再度目を通し、「できなかった」「もっとできていたのに」等、を思い出し、どのように取り組まなければならないか、再度確認を行い更に良い実習であるようにするために準備を行っていく。

《履修に当たっての留意点》

保育実習Ⅰ(施設)よりも、しっかりと向き合い、子ども理解に繋げましょう。また、施設には他職種の方も子どもとかかわっています。どのような関わりがあるのか、質問をし学びや気付きが多い実習にしていきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで過去の関わりで困った事例を考えることで、色々な対応があることに気付き、視野が広がる。	・配布プリント	・自分自身の関わりで困ったことがあれば、教員や他学生にどう対応するかなど聞き、視野を広げて考えるようにする。
		各コマにおける授業予定	・子どものかかわりの復習とワーク		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	施設ⅠとⅢの違いを理解できる。	・配布プリント	・実習までに余裕をもって準備を終えるようにする。
		各コマにおける授業予定	・保育実習Ⅲの事前課題 ・意気込み		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	振り返ることで、何が足りないか知ると同時に、習得するための課題を見つけることができる。	・配布プリント	・次回グループで事後ワークをしようするので、完成させておく。
		各コマにおける授業予定	・事後ワーク(振り返り) ・自己評価		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習の中で学んだことに対して発表をグループ内で行い、個々が他の施設の保育士の関わりを知ることができ、保育の視野を広げることができる。	・配布プリント	・今までの日誌を一通り、目を通しておく。
		各コマにおける授業予定	・事後ワークを使用し、グループワーク		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	日誌を基に今までの実習を振り返り、課題を述べることができる。	・過去の日誌 ・レポート指示書 ・レポート用紙(下書き)	・次回の授業終了後に下書きを提出するので、それまでに計画を立てて取り組む。
		各コマにおける授業予定	・レポート下書き(保育実習Ⅰ(保)、Ⅰ(施)、Ⅱ(保)orⅢ(施)を振り返り)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	指定された文字数の中で、何が伝えたいか理解できるような内容を書くことができる。	・レポート用紙（下書き）	・提出する前に、指示書を読み直し、指示通りにできているか、各自確認をする。
		各コマにおける授業予定	・レポート下書き提出（保育実習Ⅰ（保）、Ⅰ（施）、Ⅱ（保）orⅢ（施））		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	読まれるという意識から丁寧に書き、読みやすいように配慮しようとすることができる。	・レポート用紙（清書）	・今回の授業で清書が完成しなかった学生は、指定された日程までに提出する。
		各コマにおける授業予定	・レポート一斉清書		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	1年生の困った内容等に、適切な対応を伝えることができる。また、良い雰囲気の中で話合いができるように環境づくりができる。	・配布プリント	・授業時だけではなく、休み時間等も声を掛けられやすい、雰囲気作りをする。また、声を掛ける等関わりをもつ。
		各コマにおける授業予定	・実習報告会（聴講者）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	就職後も使用できる課題を作成することができる。	・課題指示書 ・A4用紙 ・マジック	・未完成の学生は、指定された日程までに提出する。そしてこれからの授業は、その都度提出になるので、計画を立てて取り組むようにする。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（手遊び・ふれあい遊び）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	壁の大きさに合わせた適切な壁面を作成する。	・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌	・型紙を使用するのではなく、普段から絵を見て描くことができるように、取り組む。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（壁面）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	協力して取り組んだ壁面の完成させる。	・画用紙 ・はさみ、のり ・保育雑誌	・次回の授業までに、保育園や幼稚園の行事を考え、発表できるように準備をしておく。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（壁面）完成		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	園だよりの作成	・見本（園だより）	・自分で「大切」だと思った内容に対して、積極的にメモを取るようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・課題作成（園だより・行事のお知らせ）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	今までの指導案を振り返り、記入漏れや子どもの予想される姿や配慮等足らない部分に気付くことができる。	・今までの日誌 ・指導案	・次回の授業終了後に提出するので、計画を立て、取り組むようにする。
		各コマにおける授業予定	・設定保育集作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	足らない部分に気付き、より良い指導案を完成させることができる。	・今までの日誌 ・指導案	・指導案未完成の学生は指定された日程までに提出する。
		各コマにおける授業予定	・設定保育集作成　提出		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育士としてどうあるべきか、明確な保育士像ができる。	・配布プリント	・各自が思う理想の保育士像に近づけるように、必要だと思うことに対して、真剣に取り組む。
		各コマにおける授業予定	・実習を終えて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	乳幼児保育Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜2限	教室名	302
担当教員	酒井　妙子	実務経験とその関連資格	保育園にて保育士として勤務。退職後クリニックにて障害児療育を担当。その傍ら、ベビーシッターの会社のアドバイザーや手づくりほいく研究会の代表を経て、現在はNPO法人Kid'sぽけっと事務局長。2019年より保育士等キャリアアップ研修の乳児保育及び障害児保育の講師を務める。		

《授業科目における学習内容》

命の大切さを学び、乳児の育ちを生活を正しく理解し、保育士としての望ましい関わりが学べる様な授業内容を展開する。
【乳児保育の基本・乳児保育の必要性と意義・0歳児～3歳未満児の発達と保育・子育て支援としての乳児保育(親とのつながり、つきあい方)】

《成績評価の方法と基準》

定期試験(70%)　出席点(20%)　平常点(提出物、授業への参加態度など)(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:『新時代の保育双書　乳児保育(株)みらい　大橋喜美子編』
・参考図書:『保育所保育指針』『子どもの育つみちすじ(服部祥子著　新潮文庫)』・『愛するということ(エーリッヒ・フロム作　鈴木晶訳)』
・参考絵本:『おへその穴(長谷川義史作　BL出版)』

《授業外における学習方法》

・授業終了時に、次回の授業内容についての予告をする。それについて関連する教科書の個所や新聞・テレビなどの情報を入手し、ある程度の知識を持って授業に望むよう努める。
・授業内容をより具体的に理解し、実践に結びついた知識となるためにも、実習をはじめ、現場体験を重ねるよう努める。
・授業における疑問点やさらに深く学びたいことは、自ら様々な文献を紐解き調べ学習するように心がける。

《履修に当たっての留意点》

乳児期は「ヒトが人間」となっていく一生の中で、もっとも大きな変化(発達)をなしとげる時期である。そして、「生きる為に生きる」エネルギーには目を見張るものがあるが、そのエネルギーと尊い生命を支えているのは子どもの隣に存在する大人(保育者)である。是非とも、学生の皆さんにはそのような存在になりえることに喜びをもって自覚して頂きたい。又、自覚してもらえる様な授業を展開したいものである。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児保育におけるスタッフ間の連携の重要性を理解し、様々な人と上手にコミュニケーションをとり、協力する姿勢をもつことができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	自己紹介および乳児保育を学ぶにあたっての心構えについて理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会における子育て環境を考察し、その中でのひとりひとりを大切にする乳児保育の重要性や役割への理解を深め、自分なりに考察できる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第1回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳児保育の意義について ストーンクラフトを用いたイメージトレーニングを通して考え、理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	益々深刻化する虐待を視野に入れ、保育士としてどのように向き合い対処していくべきかを言語化する。また乳児期と思春期との発達的つながりについて学び、保育の役割への理解を深める。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第2回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳幼児保育の役割と歴史的変遷の紹介及び今後の進むべき方向性についての理解を促す。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	改訂された保育所保育指針から読みとれる「乳児保育の役割と実践における大切な事項」について理解し、説明できる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第3回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳児保育の現状を紹介し、現在抱えている課題について考察する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きることの最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、3歳未満児の保育について考察する。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第4回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の発育と発達を踏まえた保育。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きることの最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、3歳未満児の保育について考察する。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第5回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の発育と発達を踏まえた保育。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きることの最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、3歳未満児の保育について考察する。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第6回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の発育と発達を踏まえた保育。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きることの最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、3歳未満児の保育について考察する。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第7回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の発育と発達を踏まえた保育。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第8回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	おおむね6ヵ月から1才3ヵ月未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第9回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳幼児の遊びとその環境・援助について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第10回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の生活と援助の実際(食生活・睡眠・排泄・アレルギー・事故防止etc)について学ぶ。Ⅰ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第11回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	3歳未満児の生活と援助の実際(食生活・睡眠・排泄・アレルギー・事故防止etc)について学ぶ。Ⅱ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第12回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第13回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育所以外の児童福祉施設における保育及び地域の関係機関との連携について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の授業のポイントを振り返り、自分自身は何が学べて、どのような保育を行える保育士を目指そうと考えているかを言語化できる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振返り、しっかりと復習しておくこと。 ・前期試験に臨む適切な学習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	前期試験の説明及び前期授業の振り返り		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	保健保育科	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	教育原理	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	夜主2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	合同校舎301教室
担当教員	織田　克巳	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

「教育原理」は、教育の原理・原則的な内容を追究するというより、保育の重要な内容の1つの教育について、教育の理念ならびに教育に関する歴史(幼児教育の歴史)および教育思想の概要を広く理解できる(する)学習内容とします。

《成績評価の方法と基準》

学期末試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・基本保育シリーズ②「教育原理」(2019年1月10日発行:中央法規出版)
参考図書:保育所保育指針、保育所保育指針解説

《授業外における学習方法》

①教科書を事前に読んでおくこと
②授業終了時に示す課題を実施しておくこと

《履修に当たっての留意点》

保育所(幼稚園)や学校での「教育」が自分たちにとってどのような意味を持っているのか、学校の先生や保育所(幼稚園)・学校は何のためにあるのか、これまで児童生徒の立場で見てきた教育を、今度は教える・指導する立場で考えてみましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	科目の位置づけ、学習目標、授業の概要のそれぞれが説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	保育士資格取得における科目の位置づけと授業計画等についての講義　「教育原理」の学習目標、授業の内容や概要を理解する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育者になるための教育と学びの基本を説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「教育とは何か」など、教育の意義について講義(解説)する 教育・保育を実践するものになるため、教育を学ぶ意味や教育の基本的な事項を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育は、明確な意図(目的)をもって行われることについて説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	教育(教育的行為)は、明確な目的を持つことについて、また教育を規定している、憲法や教育基本法等教育関係法規等の教育理念・目的・目標等について講義(解説)。 教育の目的等について理解する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期の教育の特性について説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	乳幼児期の教育で育みたいこと、育むものの見方、考え方、育み方やその過程のあり方について講義(解説) 今後の乳幼児期の教育における課題等について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育と子ども家庭福祉の関連性について説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分(次回授業予定)を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	教育と子ども家庭福祉の関連について講義(解説) 教育と子ども家庭福祉の関連について、児童福祉法の理念、子育て支援新制度、保育所と小学校の接続、育ちの連続性について理解する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの人間形成と家庭・地域社会が果たす役割について説明できる。	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	子どもの教育（保育）において家庭や地域がはたす役割について講義教育基本法や保育所保育指針にある家庭教育や地域の教育力の意味について理解する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	近代以降の諸外国の教育思想のいくつかが説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	近代教育に大きな影響を与えたヨーロッパの教育思想家たちと、その思想について講義（解説） 近代以降の欧米の教育思想家と思想を理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	近代国家誕生の地、ヨーロッパの教育の歴史の概要が説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	19世紀から20世紀の英独仏に焦点を当て、それぞれの歴史と公教育の進展について講義（解説） 諸外国（主に英独仏）の教育の歴史についの概要を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の江戸時代から現在までの教育思想・歴史の概要を説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	江戸時代から現在まで子どもの教育に関してどのような思想を育んできたのかの概要を講義（解説） 日本の江戸時代から現在まで、どのような価値観を持ち、どのような教育を受け、学習してきたかを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本と欧米の近代的子ども観と教育観の概要が説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	日本とヨーロッパの子ども観と教育観について、その登場の背景、および歴史的変遷について講義（解説） ヨーロッパおよび日本において、ほぼ同時期の17世紀ごろから近代的子ども観が広がっていったことを理解する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の教育制度の基本について概要的に説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	教育の制度化の状況と学校の特徴など教育制度の基本的なことを講義近代以降の教育は、対象が拡大され、体系化が図られ、制度としての学校が整備されていくことを理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の現在の教育について、現行法の規定内容の概要と教育行政のがいようを説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	日本の教育について、憲法、教育基本法等の規定内容と教育行政について講義 教育において何が大切にされ、何をめざされ、どのようにされようとしているかを理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	欧米の主な国々とアジアの主な国の教育制度の概要が説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	主にアメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国の教育制度の概要を講義（解説） 諸外国の教育制度（学校教育）の概要を理解し、視野を広げる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育実践の基の教育・保育のカリキュラムの基本的な考えが説明できる	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書の指定部分（次回授業予定）を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	教育・保育の計画の基礎となるカリキュラムの基本的な考え方、日本の保育内容・保育方法の特徴を講義 カリキュラムの基本的な考え方を理解し、日本の保育内容、保育方法の特徴を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生涯学習概念と日本における生涯学習における教育の現状と課題の概要を説明できる。	・教科書 新・基本保育シリーズ「教育原理」　・配布資料	既習全学習（教科書等）を振り返り、しっかりと復讐しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生涯学習社会の生涯学習の基本と、日本における生涯学習について講義　生涯学習社会と生涯学習の基本について理解する。		